



治罪法備攷上編 第一

7 15
815
1

和装本

6



明治七年刊成

司法省七等出仕井上毅纂

治罪法備攷上編

司法省檢事局藏版

35
815
1

東洋書院

治罪法備攷緒言
 歐洲ニ成文民法アラザルハ國アリ、治罪法
 刑法アラザルハ國ナシ、何耶、民法ハ私法ナ
 り、人民開化ノ度何如ト視ル、治罪法、刑法ハ
 國法ナリ、治罪法、刑法ナシ、是國ナキナリ、支
 那ニ刑法アリテ、治罪法ナシ、漢ノ温廷舒曰、
 秦ノ法猶存スル者アリ、治獄之吏、是ナリト、
 是漢而後ノ斷獄ハ、嬴秦夷狄ノ風、商鞅李斯
 ノ酷法ニ因襲スルナリ、其後加フルニ五胡

刑法省

日五

治罪法

ノ亂、隋唐ノ殘ヲ以テシ、則天氏ニ至テ、拷責
羅織、蓋不祥ヲ極メタリ、我カ治獄ハ法、其源
隋唐ノ陋風ニ出テ、加フルニ武門苟且ハ
政ヲ以テス、捕手繩ヲ執テ人ヲ束ヌル下獸
ノ如ク、繫囚、敲穀、復、人色ニアラス、囹圄、溷惡、
一歲瘦死スル者、千ヲ以テ計フ、法廷ニ拷杖
責盤アリ、吏ノ聲雷ノ如ク、人ヲノ夏寒カラ
シム、此レ豈盛世ノ宜ク有ルベキ所ナラン
乎、然ルニ慣習ノ久シキ、官民恬視ノ、嘗テ以

テ怪シトセズ、抑、自今數十年ノ後ニ生ル者
ニシテ、始テ將ニ今日ノ事、文身、裸體、聚妻、賣子
ノ俗ト、隣伍ヲ相爲ス_トヲ知ラントス、西人
東洋ノ夷風ヲ説ク曰、都兒其ノ抵讐律曰、日
本支那ノ拷掠法、蓋ニツノ者、明_カニ蠻野ノ徵タ
ル_ト、猶瘡ノ痂アリ、病ノ候アルカ如シ、此_レア
リテ、自_ラ文明ト稱ス、笑ヲ致サミルモ、亦愧ヲ
爲サミラン乎、殺等命ヲ奉シ西航スルノ日、
目覩ル所ニ据ルニ、囚ノ獄ニ在ルハ、幾ント

兵ノ營ニ在リ、兒ノ鬻ニ在ルニ等シ、衢ニ縛
ヲ受ルノ賊ヲ見ズ、訟廷對理、衣髮常ノ如シ、
之ヲ問テ後ニ、方ニ其何レカ罪人タルトヲ
知ル、絶^エテ菜色鬼面ナシ、退^テ其然ル所以ヲ
問フニ、蓋^シ各國建國法、首^メニ身体ノ自由、家
宅ノ不侵ヲ掲ケテ、以テ治罪ノ原則トシ、凡^ソ
被告人、其裁判宣告ノ日ニ至ルマテ、視テ無
罪人トシ、不法ノ拿捕勾留、必ス重律ヲ以テ
嚴究ス、檢官全國ニ列置シ、邊僻遺サ^ルノ

ミナラズ、檢兵ノ設ケ、精銳散布シ、通報捷速、
罪人縱令ヒ網ニ漏ル、ノ魚タルモ、亦囊ニ
在ルノ鼠タルトヲ免レズ、目代、糾問法官ト
公同シ、互ニ相箝制シ、且、檢シ且、訊スルノ弊
アルトナシ、檢視法アリ、報呈式アリ、拷訊招
承シ、以テ結案ヲ取ルヲ待タズ、喚徵引致、拿
捕押送、各、定規アリ、吏丁ノ横暴ヲ防制シ、勾
留論決、限ルニ日期ヲ以テシ、重キ者ハ緩決
シ、輕キ者ハ即決ス、淹滯稽久スルヲ許サズ、

檢官罪ヲ訴ヘテ、原被對質シ、法官ハ、靜退メ
順應シ、沈思メ衷ヲ裁スルノ任ニ居ル、被告
人ト狎々辯ヲ鬪ハスノ事ナシ、代言ノ權利、
控訴ノ自由、徃々敗ヲ轉メ捷ヲ得其間、少小
得失ナキヲ容レズト云ヒ、要スルニ刑ヲ恤
ヘ情ヲ矜ミ、寧不經ニ失フノ意ヲ得ト云ベ
シ、其、我カ舊法ト支吾スル者、遽ニ槩行シ難
シト云ヒ、參メ之ヲ酌ミ、其急ナル者ヲ舉ク
以テ斯ノ民ヲ慶セン、一、豈不可ナル者アラ

乎、現ニ今、我カ法、賊証明白ニメ招承ニ服
セザル者、始テ拷訊ヲ用フルノ明文アリ、夫
已ニ賊証アリ、何ソ再々拷訊ヲ用フルトヲ
爲ン乎、但、九罪ヲ定ムルハ、必ズ口供結案ニ
据ル、是拷訊ノ用ヒ仍、已トヲ得ザル所以ニ
メ、其實所謂口供結案ナル者、即チ正ニ隋唐
以來ノ陋風ニ坐スルナリ、話聖凍氏亞墨利
加ノ建國法ヲ定ム、曰、何等ノ罪ニ於テモ、自
己ニ害スルノ証據ヲ爲ス、トヲ強ムベカラズ

法
書

ト、夫、死、生、前、ニ、在、リ、飾、辭、自、ラ、掩、ヒ、以、テ、幸、ニ、
免、レ、ン、ト、ラ、圖、ル、乃、チ、人、ノ、常、情、今、必、ス、犯、人
ヲ、自、罪、惡、ヲ、供、認、シ、テ、以、テ、斧、鉞、ヲ、試、ミ、シ
ム、是、拷、訊、ヲ、用、フル、ニ、非、レ、ハ、它、ニ、爲、ス、ベ、キ
ノ、術、ア、ラ、ン、乎、故、ニ、歐、洲、各、國、罪、人、ノ、口、供、ハ、
甘、服、承、認、ス、ル、者、ト、云、レ、視、テ、以、テ、証、款、ノ、一
端、ト、ス、ル、ニ、過、キ、ズ、メ、据、テ、以、テ、結、實、ト、ス、ル
ト、ナ、シ、話、聖、東、ノ、此、原、則、ヲ、定、ム、ル、即、チ、斷、メ
拷、訊、ヲ、廢、ス、ル、所、以、ナ、リ、今、拷、訊、ヲ、廢、セ、ン、ト

欲、セ、バ、先、口、供、結、案、ヲ、廢、セ、ザ、ル、ベ、カ、ラ、ズ、抑、
口、供、結、案、ヲ、廢、セ、バ、更、ニ、何、ヲ、以、テ、罪、ヲ、斷、セ
ン、此、レ、法、ヲ、講、ス、ル、者、歐、洲、檢、視、証、告、ノ、方、法
ヲ、斟、マ、ザ、ル、ト、ヲ、得、ザ、ル、所、以、ナ、リ、佛、蘭、西、治
罪、法、條、則、備、ニ、具、ハ、ル、ト、云、レ、其、實、地、施、行、ノ
際、彼、此、情、況、ノ、異、ナ、ル、讀、ム、者、往、々、臆、想、ヲ、費
ス、ト、ヲ、免、レ、ズ、備、警、兵、ハ、檢、察、ノ、手、足、ニ、メ、而
メ、治、罪、法、絶、テ、其、事、ヲ、著、サ、ズ、現、行、懲、治、犯、即
決、法、尤、モ、改、正、ノ、美、ニ、メ、治、罪、法、ト、別、ニ、行、フ

ノ類ノ如シ、其它、處務順序ニ至テ、日常慣習ヲ用ヒ、成文法ノ畧スル所、彼ニ在テ、人々目熟スルノ事、我ニ在テハ、則チ風ヲ捉ヘ影ヲ摸スル者、徃々ニモ是アリ、今、佛國諸學士ノ書ヲ參伍シ加フルニ目撃耳聞スル所ヲ以テシ纂メテ治罪法備攷トス、以テ立法官ノ裁酌ニ備フ、

明治七年八月

司法省七等出仕井上毅誌

序五

治罪法備考上編第一卷

○第一章

治罪法沿革

リシヤル、メーゾン子ウ、氏刑法總論

古、治罪法ニ二類アリ、一ヲ告訴法トス、人民各自罪人ヲ訟ヘ、法廷ニ對質シテ勝ヲ決スルノ謂、現英國ノ法即一ヲ糾問法トス、檢官ヲ設ケ、檢察糾問シテ証ヲ取ルノ謂、歐洲ニ於テ、古昔蒙昧ノ時ヨリ、千五百紀ニ至ル迄ハ、專ラ告訴法ヲ用ヒ、千五百紀ヨリ、革命ノ變ニ至ル迄ハ、專ラ糾問法ヲ

司法省

用ヒタリ、

古ノ告訴法ハ、君主自ラ廷ニ臨ミ、犯人ト同列ノ
人ヲ衆會セシメ、即チ陪審公廷聽理シ、衆人廣聽豫審
ヲ用ヒズ、原告人、被告人ト對訴シテ、原告人ハ、証
據ニ依ルヲ必要トセズ、反テ被告人無罪ヲ辯白
スル爲ニ、反証原告ニ反對ヲ舉ルヲ要ス又其ノ
反証ヲ審確スル爲ニ、己、宣誓シテ、親族朋友之ニ
同誓シ、オルトラシ氏ニ據ルニ、同誓ノ法ハ、各國
其定數同カラズ、三人四人五人六人或ハ
十二人、以テ七十二人八十人ニ至ル、本人宣誓ス
ルノ間、同誓人其ノ手ヲ宣誓人ノ手ノ下ニ置キ、
以テ其ノ若クハ証人ヲ以テ証言シ、若同誓人若
信ヲ助ク、若クハ証人ヲ以テ証言シ、若同誓人若

クハ証人ヲ得ザル時ハ、神裁ヲ行フ、神裁トハ兩
造決闘、決闘ハ、或ハ己自ラ決闘シ、或ハ死士ヲ傭
フテ決闘ス、若シ闘ヒ敗レタル者ハ、闘ニ
死セザレバ、即チ刑ニ死ス、此ノ時ノ控訴者ハ、闘ニ
ハ、法官ノ横斷ヲ訴ヘ、法官合員ト決闘ス、若クハ
烙鉄、熱湯、探闖ヲ用ヒ、勝敗ヲ決シ、以テ神意トナ
スノ謂ナリ、

告訴法ノ利ハ、曰、對質、曰、公聽、曰、陪審、其ノ弊ハ、曰、
証憑具ハラズシテ、臆斷其ノ間ニ行フ、曰、無罪待
被告ノ元則ヲ敗ル日ニ至ル迄ハ、皆無罪ヲ以
テ視ル是レ治
罪ノ元則ナリ、
糾問法ハ中世教徒ノ創始スル所ニシテ、戰國告

訴ノ弊ヲ敗ルニ出ツ、被告人ヲ視ルニ無罪ヲ以
テシ、人ノ罪ヲ原告スル者ハ、必ず証憑ノ舉ケシ
メ相訴法ト又公廷ヲ開カズシテ、豫審ヲ行ヒ、規
程多端、以テ告訴ヲ檢閲ス、蓋此ノ法ノ原由ハ、要
スルニ證據ヲ得ル為ニ設クルニ過キザルナリ、
而シテ其ノ順序ハ、初メニ訪察、及証人供狀、証人
訴ノ見証、及被告人訊問、次ニ証人及被告人ノ口
供結案、及証人ト被告人トヲ對理シテ、對理口書
ヲ作ル、現今証告書及ヒ供狀ノ由テ出ル所其ノ後、目代或ハ拷訊
ノ許可ヲ求ム、又其ノ後ニ、裁判所ニ於テ、目代ノ

論告ヲ聽キ被告人ヲ訊問シ、被告人答辯適當ナ
ル時ハ、見證人ヲ詰リ、或ハ拷問シ、最終ニ裁決ス、
是レ今ノ佛國治罪法ノ由テ出ル所ナリ、
ログロン氏曰、告訴法ハ、戰國ヨリ來リ、糾問
法ハ羅馬ヨリ來ル僧門、初メ戰國決闘ノ害
ヲ變ジ、專ラ文書結狀ヲ重ンシ、從テ一種ノ
新法ヲ起スニ至ル、其後、英國ヲ除クノ外、歐
洲全土、終ニ槩シテ專ラ糾問法ヲ用ヒタリ、
糾問法ノ美トスル所ハ、曰、豫審、以テ裁斷ヲ豫構
シ、臆斷ヲ防テ、被告人ヲ護ス、曰、各民ノ私告ニ代

フルニ檢官ノ公告ヲ以テス、然ルニ其ノ弊害太
 甚ナルニ至テ、日、兩造對理ヲ廢ス、日、豫審、決審、共
 ニ廣聽ヲ行ハズ、日、許可ナクシテ、代人ト通接
 スル一ヲ得ズ、日、辯雪ノ事款ヲ述ル時ハ、直チニ
 証人ヲ舉ルヲ必要ス、日、糾治シテ証ヲ得ザルモ、
 被告人ヲ解放セズシテ、再檢ヲ命シ、誓久日ヲ彌
 爾今ノ法、九ソ罪ヲ糾シテ証ヲ是レナリ、且、法官
 其ノ得ザル者ハ、被告ヲ解放ス、是レナリ、且、法官
 其ノ本心ノ自由隨真ナル感覺ニ依テ心証ヲ成
 ス一能ハズ、本心感覺是レ法ヲ多クハ、証憑文書
 ノ為ニ拘縛セラレ、一ヲ免レズ、竟ニ被告人
 三

ノ供認招承ニ据テ審確ヲ取ルヲ以テ必要トシ
 從テ拷責ヲ以テ結局ノ方法トスルニ至レリ、然
 ルニ拷責ノ效タル、亦強忍ナル者ヲシテ倖免セ
 シムル一ヲ免レザルナリ、捕ニク、就キ、暗室ニ被
 シ、其ノ事、何ヲ知ラズ、原告而シテ、慘ナク、拷責
 以テ供承ヲ獨リ、挑ム、法官タル者、對テ、刺ナ
 ハテ、聽カズ、獨リ、挑ム、法官タル者、對テ、刺ナ
 ケ、招承ヲ以テ、獨リ、挑ム、法官タル者、對テ、刺ナ
 二、日、是レ、理、千、五、百、年、代、ハ、自、イ、テ、カ、ル、氏、ハ、言
 千六百七十年、路易十四世ノ令ニ至テ、稍脩正ヲ
 行ヒ、九ソ拷責ヲ用フルニハ、罪死ニ擬スベキ者

ニシテ重要ノ証憑己ニ發シタル者ニ限ラシメ
タリ、

拷責ノ殘刻不理ヲ論スル者、日ニ多ク、千七百八
十年路易十六世、始メテ拷責ヲ禁スルノ令ヲ發
シタリ、

千七百八十九年、革命ノ變ニ至テ、盡ク成跡ヲ毀
チテ、其ノ殘餘ヲ集メ、既ニ驗ミタルノ良否ヲ取
舍ス、故ニ告訴法ニ於テハ、第一、陪審、第二、廣聽、第
三、兩造對質、第四、控訴ヲ取り、糾問法ニ於テハ、第
一、檢官ノ設、第二、豫審ヲ取レリ、是レ佛ノ治罪法

ハ古ノ兩法ヲ合セテ成ル者ナリ、
日、豫審ハ、糾問
法ニ依ル、決審ハ、
告訴法ニ依ル、

千七百九十一年、告訴陪審即チ大陪審、裁判陪審即チ小陪審

ヲ設ク、告訴陪審八員、訴罪狀ヲ聽キ、証人告訴
人ノ陳述ヲ聽キ、証憑文書ヲ檢査シ、評議ヲ致シ
テ後、或ハ被告人ヲ解放シ、或ハ之ヲ重罪裁判所
ニ送ル、

那破倫治罪法ヲ定ムルニ及テ、告訴陪審、槩子其
職ヲ舉クルヲ能ハサルヲ以テ、之ヲ廢シ、易フル
ニ上等裁判所ノ重罪問擬局、及郡裁判所ノ會議

局ヲ以テセリ千八百五十六年ニ至テ、又郡裁判所ノ會議局ヲ廢シ、糾問法官ヲ以テ之ニ而ノ獨リ裁判陪審ヲ存シ、陪審罪ノ有無ヲ決シ、法官刑ヲ科ス

刑法治罪法ノ成ルハ、國議院員六人、大審院長一人、大目代一人、專務ヲ命セラレ、案ヲ草シ治罪法ハ、千八百八年、刑法ハ、千八百八年ヨリ、千八百十年ニ至テ、案成リ、千八百十一年ニ至テ、議院ノ決ヲ經、二法共ニ施行セリ、

以上沿革ノ大畧トス、槩シテ之ヲ論スルニ、刑法及治罪法ノ成ル、精到ナリトセズンハアラズ、抑

天下ノ開化、猶至善ノ地ニ至ラズ、法律ハ開化ニ生シ、而シテ開化ヲ護スルノ具ナリ、故ニ天下ノ法律、未至善ナル者アラズ、現ニ、千八百三十二年ノ改正ニ於テ、酷法數條ヲ廢シ、其ノ後、國事犯ノ死罪ヲ廢シ、梟示ヲ廢シ、准死ヲ廢シ、及千八百六十三年、現行懲治犯即決法ヲ行フ等、即チ進步ノ著キ者ナリ、

英ニ於テハ、犯人ヲ拿捕スルノ多キ、佛ニ比フレバ、十陪乃至十二陪、然ルニ保釋ノ法保証金ヲ納メ、釈放シテ、裁候、甚タ廣ク、重緊事件ヲ除クノ外、法官保釋

ノ請ヲ拒ムト得ズ、佛ノ舊法、未決勾留ノ法、太
刺ヲ免レズ、千八百六十五年ニ至テ、白耳義ノ法
ニ效ヒ、改正ヲ致ス、乃チ今ノ治罪法九十一條以
下是レナリ勾留ノ章
佛ノ豫審密行法見コ衆人廣聴ハ其ノ治罪法ノ寂
要節目タリ、然ルニ、論者尤モ滿テリトヒザル者
多シ、英ニ於テハ、允ソ豫審、皆廣聴ヲ許ス、証人對
質、被告人訊問、家宅搜索、驗相人處方等ニ於テ、被
告人及被告人ノ朋友、及代言人、及它ノ衆人、皆縱
觀廣聴ヲ許ス、蓋英ノ法ハ、獨正理ヲ恃ミ、詐偽貪

冒誣罔ノ事アルヲ防慮セズ、被告人ト指目ノ間
ニ相教フル者アリテ、罪犯ノ痕跡ヲ塗滅シ、法官
ヲ迷悞シ、巨姦往々網ニ漏レ、懲究力ヲ失フヲ致
ス、往々ニシテ有リ、是ニ於テ、千八百四十八年
八月十四日ノ法ニ於テ、嗣後、法官便宜豫審ノ密
行ヲ命スルヲ許セリ、千八百四十九年ニ至テ、
北亞墨利加諸邦、亦往々之ニ倣ヘリ、是ニ由テ觀
レバ、佛ノ法、亦未タ失テリトセズ之ヲ要スルニ、
法ヲ議スル者、當ニ務メテ國俗慣習ヲ考ヘ、慎重
シテ以テ參酌スヘシ、遽カニ它國ニ倣リ、固有ノ

舊制ヲ紛更スベカラザルナリ、

按スルニ、告訴法ハ、北人ニ始マリ、戰國ニ盛
ニシテ、今、英ニ存ス、但、英人潤色更張シテ、現
ニ豫審ヲ用フ、糾問法ハ、羅馬ニ基シ、中世歐
洲全土ニ蔓延セリ、現今佛國ノ治罪法ハ、告
訴糾問ノ二法ヲ集成スル者ニシテ、普魯西
以下諸邦相繼テ之ニ倣ヘリ、

附 佛國廢拷訊沿革セリエル氏

佛國ニ在テ、拷掠ノ用ヒハ、延テ千七百年代ノ末
ニ及ヘリ、此ノ時、獄吏殘酷習ヲ成シ、種々ノ器械

ヲ用ヒ、水火木鉄支體ヲ傷折シ、具サニ苦楚ヲ窮
メテ、以テ供認ヲ責メ、吏人傍ニ在テ、其ノ口狀ヲ
録セリ、千五百年代ニ至テ、ロベル、エスチエヌ氏
モンテローヌ氏輩起テ、始メテ拷訊法ヲ論駁セリ、
ロベル、エスチエヌ氏曰、拷掠ニ依テ得タル所ハ
證據ハ、確實トスルニ足ラズ、何トナレバ、強梗ハ
人ハ、剛狠ノ氣力、鉄石ノ皮膚アリテ、能ク慘刺ニ
勝テ、柔弱ノ人ハ、拷具ヲ目ニ觀ルト否ヤ、已ニ昏
迷自失スルニ至ル、故ニ拷掠ハ、供狀ハ、決メ、確的
ナルトナシト、モンテローヌ氏曰、拷掠ハ、以テ情實

ヲ白スルニアラズシテ徒ニ強忍ヲ驗ミル而已
能ク苦ヲ忍ブ者ハ實ヲ隱シ能ク忍バザル者ハ
之ニ反ス痛苦ノ力己ニ有ル所ノ事ヲ供露セシ
ムルニ足ルト云ハハ亦獨リ無キ所ノ事ヲ曲認
セシムルニ足ラザラン乎己ニ無罪ハ人能ク苦
ヲ忍テ被ル所ハ枉ヲ辯スト云ハハ有罪ノ囚亦
死生前ニ在リ獨リ忍テ其ノ罪惡ヲ隱匿セザラ
ン乎拷掠ヲ用フルノ原起ハ蓋人ニ本心アリ拷
掠ハ能ク有罪人ノ本心ヲ引テ萎弱懺悔セシメ
又無罪人ノ本心ヲ引テ強立自持セシムト云ニ

アリ抑人此ハ現際痛苦ヲ避クル爲ニ何事ヲカ
言ハザラン乎古來不實ノ供承ニ依テ其ノ首領
ヲ賭ニシタル者幾何人ナル乎ヲ知ラズ夫レ結
案ナクシテ刑殺スルヲ避ケ反テ刑殺ニ過ルハ
太甚ヲ爲ス不法ノ極ニアラス乎ト
二氏ノ至論アリト云モ慣習ノ久キ二百年間猶
相因テ改メズ其後モンテスキウ氏律令精義書
ニ於テ又拷掠ヲ廢スルヲ論シラルテ一ル氏
千七百七十七年ニ路易十六世ニ建言シテ曰歴
世ノ主君其燕饗妃嬪及戰伐ノ中ニ在テ誰カ此

ノ細ニノ弊事ヲ革ムルニ思ヒ至ラン乎、嗚呼、路
 易十六世王陛下、彼ノ遊樂ヲ屑シトセズシテ、能
 ク此ノ事ヲ了シモ、ハント欲スル乎ト、
 ヲラレテ、ル氏ノ言聽カレ、千七百八十八年、始メ
 テ拷掠ヲ禁ジタリ、其令ニ曰、強服疑似ハ供狀、及
 テ法官ヲシテ、苦楚叶号ノ間事情ヲ辨析スルニ
 困マシメ、無罪人ヲシテ、己ニ一タビ不實ハ供述
 ヲ爲シ、又拷責ヲ畏レ、終ニ改メ辯スルト能ハズ、
 甘シテ冤ヲ吞ムノ慘アラシムト、
 按スルニ、斷獄法ヲ改ムルハ先ツ拷訊ヲ廢

スルヨリ急ナルハ莫シ、唯拷訊ノ用ヒアリ、
 故ニ法官タル者、慣手勝ニ扭レ、苟モ簡捷ヲ
 利シ、更ニ良法ヲ講セズ、故ニ拷訊廢セハ、良
 法相繼テ出テントス、佛蘭西ノ拷訊ヲ廢ス
 ルハ、千七百八十八年ニ在リ、其ノ明年、始メ
 テ陪審ヲ設ク、又其後二十二年ニシテ、始メ
 テ今ノ治罪法ヲ行フ、是レ拷訊ヲ廢スルト
 前ニ在テ、陪審ノ設ケ、治罪法ノ施行、相因テ
 生スルナリ、乃チ和蘭ノ如キ、現ニ陪審ヲ用
 ヒズシテ、而シテ拷訊仍用フルトヲ聞カザ

ルナリ、

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

○第二章

治罪法大意

治罪トハ、罪犯ヲ糾彈シ、及ヒ裁判スルハ法則ヲ云、

糾彈裁判ノ程式ヲ定ムルニ法章ヲ以テシ、議院決ヲ經頒布シタ其ノ法章ヲ集メテ之ヲ編成シタル者即チ治罪成法トス、
夫レ罪惡ヲ懲スハ一世ノ公論無辜ノ冤ヲ保庇スルハ民主ハ大義ニツノ者往々乖テ相馳ス、其ハ衷ヲ酌テ二端ヲ調諧シ兩々相反セザラシム、

ル。下是レ法ヲ議スル者、意ヲ致シカヲ輸スハ正
鵠ナリ、治罪成法ヲ讀テ知ルベシ、
法成テ檢職法官敢テ之ニ違フヲ得ズ、違フ者
ハ名ケテ法ヲ破ルトス、法ヲ破ル者ハ、裁判已ニ
終決スル者ト云ドモ、原被兩造ヨリ之ヲ大審院
ニ上告シ、大審院乃チ成裁ヲ批駁ス、名ケテ裁判
ヲ破毀ストス、以上ログロシ氏
允ソ被告人ヲ待ツニ先ツ無罪純白ヲ以テス、其
罪ヲ告訴スル者ハ必ズ証憑ヲ舉クルニ責任ス、
而シテ被告人廷對答辯ス、カール・グン子ウシ氏

佛ノ治罪法ハ古ノ告訴法糾問法ヲ合セテ成ル
者故ニ治罪法分テ二大段トス、曰、檢察即チ司
チ古ノ糾問法ヲ用ス、曰、裁斷即チ警察、
檢察一名ハ豫審、裁斷一名ハ決審、檢察ハ密行シ、廣聴ヲ以テ犯跡
ヲ求メ、裁斷ハ公廷對理以テ心証ヲ資ク、同上
治罪ノ起ルハ原告ニ始マル、原告ニ公私ノ別
ハ廣ク衆人ニ係ル者ヲ公トシ、一人ニ係ル者ヲ
私トス、允ソ罪ヲ犯ス者ハ世範ヲ擾リ公治ヲ破
ル、今一人ヲ毆撃シ一家ヲ盜掠ス、侵ス所小ナル
ニ似タリト云レ、其ノ實一國ノ全部ヲ害シ一國

即チ之カ仇敵タリ起テ訴ル者一國公衆ノ權義
ナリ犯人ヲ刑スルヲ求ムルノ訴之ヲ名ケテ
公訴トスル所以ナリ公訴ハ法ニ曰法章ニ依テ
任ヲ受ケタル官吏獨リ其ノ權ヲ有ストログド
所謂法章ニ公訴ノ權ヲ受ケタルノ官吏ハ上等
裁判及會審院ニ於テハ大目代及大目代輔懲治
裁判ニ於テハ目代及目代輔警察裁判ニ於テハ
警察使若クハ邑長副邑長是レナリ罪犯ハ世ハ
公敵人々起テ之ヲ討スルヲ得何故ニ獨リ專
ラ之ヲ數負ノ官吏ニ任シタル乎蓋シ古昔人々

罪ヲ訴ヘ怨仇相結ヒ讒誣風ヲ成ス佛蘭西ニ在
テ檢官ノ設ケアリ專ラ公訴ノ事ニ任シ各民罪
犯アルヲ知レバ檢官ニ報知告發スルヲ得自ラ
公訴ノ事ヲ行ヒ刑ヲ求ムルヲ得但シ懲治
ノ例ニアラザル者アリ怨仇告訴ノ風ヲ防ク此
詳ニ私訴ノ部ニ見ユ私訴トハ何ソ九民法ニ在テ人ヲ害スル者
ハ抵償法アリ以テ其ノ害ヲ平復ス罪犯ノ起ル
己ニ公治ヲ侵シ兼テ私利ヲ害ス公治ヲ害スル
者檢官公訴以テ刑ヲ科シ私利ヲ害スル者各民
私訴シテ以テ償ヲ責ムニツノ者相因テ相觸レ

ズ、例如へハ、今人ノ萬金ヲ盗ム者アラシ、是レ産
有ノ大權ヲ侵ス、即チ公治ヲ害スル者、固ヨリ刑
法ノ赦サバ、ル所然ルニ盗ヲ被ルノ人、刑法ニ關
カラズ、亦必ズ官ニ請フテ、追徴給還ス、即チ私己
ノ損害ヲ平復スルノ民法ナリ、此ノ類、刑法ニ附
帶スルノ民訟ニシテ、名ケテ私訴トス、同上
公訴ハ、裁決ヲ得ルニ至ル迄、間斷ナク處行ス、故
ニ一路直進徹到根抵其ノ已ニ裁スル者ハ、一事
不再理ノ元則ニ據リ、再々ヒ訴フルトナシ、
人ノ事ヲ行フハ、三ツノ能力相因テ成ス、曰、心曰

言曰、手治罪法ノ審問アルハ、譬へハ心知ノ思考
スルナリ、裁判ハ、譬へハ言ナリ、處決ハ、譬へハ手
ナリ、知ラザレバ、以テ言フベカラズ、其ノ知ル爲
ニ、知會ノ資料ヲ研クテ、以テ已ムベカラズ、知會
ノ資料トハ、何ソ、証憑是レナリ、之ヲ研ントセバ、
先ツ之ヲ聚メザルベカラズ、之ヲ聚メントセバ、
先ツ之ヲ索ラザルベカラズ、ホルトラン、氏
罪ヲ決スルニ証ヲ以テス、証ヲ取ルノ義、同カラ
ズ、蒙昧戰亂ノ時ノ告訴法ハ、神意或ハ鬪勝ヲ以
テ証トシ、中世ノ糾問法ハ、罪人ノ招承ヲ以テシ、

革命以後代フルニ心証ヲ以テス、即チ今ノ治罪
法三百四十二條陪審指令書是レナリ、同上
三百四十二條云、法律陪審ニ求ムルニ、其ノ被告
ノ答辯ヲ信スル、何ノ辯証ニ依ル乎ヲ問フ、
無ク、又陪審ニ其ノ何ノ準繩ヲ以テ原告証ノ優
勝備足ナルヲ取裁スベキヲ指令スル、無シ、
但、陪審等靜默會思シテ自ラ己ニ問ヒ、而シテ其ハ
本心ハ誠真ニ於テ原被ノ證據何レカ其ハ心理
ニ感觸シタル乎ヲ求ムルヲ指令スル而已、法
律陪審ニ告ルニ非ス、曰、証人幾名ノ証スル所ハ

爾等ノ信スベキ者ト、又告ルニ非ス曰、此ノ如キ
証告書、此ノ如キ文書、証人幾名、徵驗幾件ニ成ル
ニ非レハ、凡ノ証憑、皆爾等ノ据ルベキ者ニアラ
ズト、但、陪審ニ其職務諸事ヲ蔽フ所ノ一言ノ問
ヲ爲ス而已、曰、爾等ハ、精一ナル心証ヲ得ル乎ト
同上

此レ特ニ陪審判斷ノ方法タル而已ナラズ、其ノ
懲治裁判警察裁判ニ於テモ、亦同一トス、懲治裁
官實ニ陪審ヲ兼ス、然レモ、懲治裁判警察裁判ニ
於テハ、事體稍輕キヲ以テ、例外心証ノ今法ヲ用

ヒズシテ、文証ノ舊法ヲ用フル者アリ、同上
 所謂文証ヲ用フル者、治罪法百五十四條、及百八
 十九條ニ据ルニ云、凡ノ違警罪犯懲治罪犯ハ、証
 告書若クハ証人ヲ以テ証スベシ、証告書トハ、檢
 察官ノ報呈ニシテ、法章ニ於テ、正信ノカヲ與フ
 ル者ナリ、証告書正信ノカヲ成スニ、二類アリ、故
 ニ其ノ証告書ヲ破ルニ、亦二類アリ、一ハ、凡ノ公
 正証書ノ偽ヲ訴フル為ニハ、特別ノ繁難ナル訴
 訟式例アリテ、其ノ式例ヲ用フルニ非レハ、它ノ
 証舉アリト云ドモ、証告書ヲ駁スルヲ得ズ、官
 林

警人ノ証告書 一ハ、廷對ニ於テ、証書若クハ証人
 即チ是レナリ
 ヲ引キ、反証ヲ舉ケ、以テ証告書ヲ辯駁スルヲ
 得、目代以下檢察官懲治罪 輕罪ニ於テ、証告書ノ
 重キ、此ノ如シ、即チ所謂 故ニ輕罪ニ於テ、法ニ依
 ルノ証告書アル者ハ、法官其ノ心証ヲ証告書ニ
 寄セ、据テ以テ按決ス、其ノ故無クシテ、法ニ依ル
 ノ証告書ニ据ラザル者ハ、証告書ノ信ヲ破ルト
 ス、
 オルトラン氏曰、証告書ノ信、特訴ニ非レバ、
 駁スベカラザル者、是レ舊法ノ餘物ニシテ、

今時ノ宜シク有ルベキ所ニアラズ、何等ノ
輕犯タリト云ドモ、罪ノ有無ヲ決スルニ、豈
ニ答辯ヲ聽カス、法官ノ心証亦曲ケテ文書
ノ下ニ拘束セラル、ノ理アラシキ乎、今証告
書ヲ存シ又反証辯駁ノ法ヲ存セハ、可ナリ、
若シ法ニ依ルノ証告書アルヲ無ク、及ヒ証告書
アリト云ドモ、程式法ニ違ヒ、獨リ見証人ノ報知ニ
据ル者ハ、法官心証ヲ以テ裁決スルヲ、亦三百四
十二條ニ同シ、ロクロン氏
法章ニ正信ノ權ヲ與フル証告書ヲ除クノ外、其

它ノ証告ハ、一ニ皆、報知告發ヲ以テ視、法官罪ヲ
斷スルニ、專ラ心証ノ通法ヲ以テシ、文書ニ拘ハ
ルヲナシ、重罪ノ証告書、皆是ナリ、ホルトラン氏
按スルニ、心証ノ名新ナリト云ベシ、蓋シ心
証トハ、本心ノ感覺ヲ以テ証トスルノ謂、允
ソ証ヲ取ルノ道、曰、証告文書曰、干証人供述、
曰、犯人招承、曰、証憑物件、是レ多カラズトセ
ス、而シテ一ニ皆、法官心証ノ資トスルニ過
キザルナリ、檢察官拾聚シ、糾問法官訪察シ、
方法多端、日ヲ經ル亦多シ、文書几案ニ堆積

シ、証人公廷ニ環拱ス而シテ法律ノ示ス所
曰、文ニ泥ムト勿ビ証ノ多少ニ拘ハルト勿
以唯心証何如ト問ヘト、繁ニ繼クニ簡ヲ以
テシ、博ヲ終フルニ約ヲ以テシ、有形ニ代フ
ルニ無形ヲ以テス、是レ歐洲論罪法ノ要訣
ナリ、余嘗テ其ノ源、教旨ニ出ルヲ疑フ、其ノ
由テ起ル所ヲ尋ヌルニ及テ、心証ノ法ハ實
ニ革命ノ變ニ始マル、此ノ時、政府皆、理學ノ
黨ニシテ、盛ニ教旨ヲ排撃シ、心理是レ神ノ
說ヲ唱フルニ至ル、其ノ糾問法ヲ廢シテ、代

フルニ心証ノ元則ヲ以テスル者、即チ教會
ノ舊法ニ反スル所以ナリ、理學家、本心ノ自
由ヲ説ク、心証之法、亦此レニ出ル而已、

○第三章

各國建國、法治罪原則

按スルニ、犯人主名未タ的確ナラズ、罪ノ有
無未タ判決セズシテ、之ヲ拿捕拘留シ、之ヲ
糾治責問スルハ、已ムコトヲ得ザルニ出ツ、憲
章以テ之カ防ヲ爲スニ非レバ、官吏威ニ藉
リ酷ヲ行フノ患、往々免レザル所、故ニ各國
建國法ニ於テ、爲ニ條章ヲ設ケ、治罪論刑ノ
原則トシ、大小官吏ヲ論セズ、横斷スル者ハ、
將ニ反建國法律ヲ以テ之ヲ處セントス、今マ

亞米利加合衆國、及歐洲四大國ノ建國法ニ
就キ、其ノ人身自由、及治罪法刑法ニ關カ
ル者ヲ抄譯ス、

○合衆國建國法

第一章第九節二

叛亂、若クハ外寇ニ當リ、國ノ安危ニ因ルニアラ
ザレバ、人身保護之權ヲ彈ムベカラズ、故無クシ
捕スル者アレバ、法官即チ令狀ヲ發シテ、囚人ヲ
引見シ、自ラ其ノ狀ヲ問ヒ、其ノ不法ナル者ヲ解
放ス、名ケテ人身保護之權トス、但タ戒嚴ハ時ハ、
守備ヲ重スルヲ以テ、此ハ例ヲ除ク、詳ニ後ニ見

第九節三

汚族ノ令、逆罪ハ、其ノ家族ヲ奴隸ニシテ、平民ニ
之令及ヒ、犯後設條、追制過去ハ、法事ハ、犯前未
ズ、事後ニ條ヲ設ケテ、犯人ヲ科ス、其ハ、律アラ
是レ、約束ナクシテ、人ナ刑スルナリ、布告スル
下ヲ得ズ、此ノ條、刑

第三章第二節第三

大臣犯罪ハ、議院之ヲ論告スルヲ除クノ外、允ソ
刑事ノ裁判ハ、陪審ヲ用フベシ、
允ソ裁判ハ、罪ヲ犯シタルノ地ニ於テス、陪審
ルヲ

ニ便但シ其ノ罪一州内ニ於テ犯ス者ニ非レハ、
ス。但シ其ノ罪一州内ニ於テ犯ス者ニ非レハ、
犯罪、數州ニ干議院ニ於テ特ニ其ノ裁判スベキ
ノ處ヲ定ム、

建國法補正第四條

國民其身體居宅書札物料ヲ享有保全シ非理ハ
搜索勾收ヲ受ケザルハ破ルヲ得ズ、
誓ヲ爲シテ証舉スルノ莊重ナル瞭察ニ依ルニ
アラザレバ、令狀拿捕狀ヲ付スベカラス、其ノ令
狀ハ搜索スベキノ處、拿捕スベキノ人押收スベ
キノ物ヲ的確ニ書載スベシ、
前確ナラザレバ吏卒因縁シテ不法ヲ

為ス下ヲ恐
ルハナリ、

第五條

死罪、若ク、它ノ重罪ニ付キ、大陪審ノ論告狀ナ
キハ、何人モ、告訴ニ答フルニ及ハズ、
重罪ヲ告
スルニハ、先ツ大陪
審ノ論告狀ヲ待ツ但シ海陸軍士ハ、此ノ例ニア
ラズ、郷兵國難ノ時ニ當リ、現ニ役ニ服スル者ハ、
海陸軍士ニ同シ、
同人ニシテ、再タヒ同上ノ事件ノ為ニ、生命及支節
ヲ危クスルハ、糾治ヲ受クベカラズ、
言ハハ一
心ハ、一
言ハハ、一
心ハ、一再タヒ重罪ハ、其同一事件ヲ以
テ、再タヒ重罪ハ、其同一事件ヲ以

何等ノ罪ニ於テモ、自ラ已ニ害スルハ、証舉ヲナ
ス。トテ強ラレ、下ナシ、故ニ拷責供
法ニ依ルノ糾治ニ由ラズシテ、人ノ生命及自由、
及所有ヲ奪フベカラズ、
相當ノ償ナクシテ、私有ヲ以テ公用ニ當ツベカ
ラズ、
田宅ヲ没入セ
ザルヲ云フ

第六條

凡ソ鞠獄ニ於テ、被告人犯所ノ州郡ノ不偏ナル
陪審小陪ニ依リ、便速ニシテ公然ナル裁判ヲ受
クルノ權ヲ有ス、郡トハ、法ニ因リ豫メ界ヲ畫シ

タル者、其ノ本州及本郡ノ陪審ヲ用ハルハ、位置
情趣ヲ同スルハ、陪審ヲ以テ信倚スベシト
スルナリ、其ノ不偏ヲ欲ス、故ニ嫌疑拒障スル
ヲ許ス、便速ニシテ淹滯セズ、公然ニシテ隠秘セ
ズ、

被告人ハ、其ノ告ケラル、所ノ罪状及因由ヲ知
會セラレベシ、

己ヲ訴フルノ証人ニ對辯スベシ、

己ヲ防護スルノ証人ヲ出ス、其ノ意ニ任スベ
シ、

己ヲ防護スル爲ニ、代言人ノ助ケヲ得ベシ、

第八條

不當ノ保證金ヲ要シ、過度ノ罰金ヲ科シ、及慘刺
不常ノ刑ヲ行フベカララズ、

○佛蘭西

千七百九十一年建國法

人民諸權

第一條

凡ソ人タル者ハ、其ノ權利ニ於テ自由ニシテ、且
平等ニ是ヲ以テ生ズ、是ヲ以テ止マル、天生固有
ニシテ、又
確定不拔
ナルヲ云

第二條
凡ソ政府ヲ成スノ標的ハ、天然不拔ノ人類諸權
ヲ保存スルニアリ、

諸權トハ、自由、日所有、日安全、日横暴ニ抵抗ス、

第四條

自由トハ、凡ソ他人ニ害セザルハ、凡テノ事ヲ爲
シ得ルノ謂ナリ、故ニ各人ノ天權ヲ行フニ於テ、
限防アルトナシ、但、它ノ同類タル人負ヲシテ、此
ノ同一天權ヲ保タシムルヲ以テ、限防トスルノ
ミ、他人ノ權利ヲ妨
ケザルヲ云

此ノ限防ヲ畫定スルハ、獨リ法ニ依ル而已民議ハ
ハ外經テ公布スルノ法章ヲ云、法章ヲ除ク
ヲ經テ公布スルノ法章ヲ云、法章ヲ除ク

第五條

法ハ世ニ害スルノ行ヒニアラザレバ之ヲ禁ス
ルノ權ヲ有セズ、
凡ソ法ノ禁セサルノ事ハ之ヲ妨クルヲ得ズ、
法ノ命セザルノ事ハ何人モ之ヲ強ラレ得ルヲ
ナシ、

第七條

法ニ因テ定メタル事件ヲ除ク外及法ノ示ス

所ノ程式ニ循フニ非レハ九テノ人告誡拿捕勾
留ヲ受ルヲ得ルヲナシ、
横制ノ命ヲ囑請シ及ヒ發付シ及ヒ施行シ及ヒ施行
セシメタル者ハ必ス罪ヲ得ベシ横制トハ不法
然レモ允ソ國民法ニ依ルノ提喚拿捕ヲ被ル者
ハ即時ニ之ニ順フヲ要ス其ノ抵抗スル者ハ罪
ヲ得ベシ法ニ依ラザル者ハ抵

第八條

法ハ確ニ明ニ已ムヲ得ザルノ罪ニアラザレ
バ條ヲ設クルヲナシ刑法ノ條アルハ已ムヲ
得ザルニ迫ル故ニ因録舞

文ノ患無カラ、允テノ人其ノ犯罪ハ以前ニ設立
シムルヲ要ス、允テノ人其ノ犯罪ハ以前ニ設立
シ、及ヒ頒布シタルノ法ニ依ルニアラザレバ、刑
ヲ受クルナシ、及法ニ循ヒ科處シタルニアラ
ザレバ、刑ヲ受クルナシ、及法ニ循ヒ科處シタル
ケス、處断法ニ循ハズ、法外ニ出入ス、故ニ刑ヲ受
亦刑ヲ受ケズ、此ノ條、刑法ヲ論ズ、

第九條

允テノ人有罪ノ宣告ヲ被ムルニ至ル迄ハ無罪
ヲ以テ視ルノ故ニ之ヲ勾捕スルナク、欠クベカラ
ザルニ出ルモ、ト云ドモ、看護ノ爲ニ已ムトヲ
得ザル處分ヲ除クハ外、允ソ慘酷ノ事皆法ニ依

テ嚴究スベシ、

第一部建國法保障根元條則

建國法ニ天然ノ民權トシテ保障スル者、曰、允テ
ノ人、建國法ニ定メタル程式ニ從クニアラザレ
バ、拿捕勾留サレ得ルナク、行キ止マリ出ル
ノ自由ヲ得、

共和八年即チ千七百九十九年 建國法

第七十六條

允ソ佛蘭西ノ地ニ住スル人ノ家宅ハ侵スベカ
ラザルノ窠窟タリ、

夜間ニハ、何人タリモ、火災、水溢、及家人ヨリ請求スルノ故ニアラザレバ、人家ニ進入スルハ權ヲ有セズ、

晝間ニハ、法ニ依リ或ハ官ヨリ發付シタル命ニ依リ、持定シタル事件ノ爲ニ進入スルヲ得、其宅ハ家主ノ意ニ逆テ進入スルヲ得ズ、但シ家主ニ告ケテ、家主許可スル者ハ、例ニアラス、

第七十七條

拿捕ヲ命スルノ令狀施行スルヲ得ル為ニハ、第一ニ、其ノ令狀ニ於テ、拿捕ノ故、拿捕ヲ命スル為ニ据ル所ノ法、章ヲ明カニ書載ス、第二ニ、令狀

ハ、法、章、明、カ、ニ、其、ノ、權、ヲ、與、ヘ、タル、官、吏、ヨ、リ、發、ス、第三ニ、捕ヲ受ルノ人ニ、令狀ヲ宣示シ、其副本ヲ交付ス、

第七十八條

凡ソ獄監獄吏ハ、其ノ簿冊ニ、拿捕ヲ命スルノ証書ヲ登記シタルノ後ニアラザレバ、人ヲ受管シテ勾留スルヲ得ズ、此ノ証書ハ、即チ前章ニ示シタル程式ニ循ヘル令狀、若クハ執繫ノ令狀、上裁判所ノ重罪問擬局ヨリ發シタル、重罪被告人ヲ重罪裁判所ノ獄ニ移スノ令狀、若クハ裁判宣告スル獄ヲ命ノ判文ニ限ル、

第七十九條

凡ソ獄監獄吏ハ、獄舎監督ノ權ヲ有スル官吏來テ拘留人某ヲ見レテ求ムルノ時、即チ其囚人ヲ出シ見セシムルヲ要ス、何人ノ命アリト云
凡、此ノ定則ニ違フヲ許サズ、

第八十條

拘留人ハ親族若クハ朋友獄舎監督官吏ハ許可票ヲ携帶シテ拘留人ヲ見シテ求ムル者ハ之ヲ拒テ其ノ拘留人ヲ出ササルベカラズ、但シ此問法官ヨリ、禁閉ノ令狀外人面接ヲ禁ズルハアレバ、獄吏

其ノ令狀ヲ示シテ、之ヲ辭スルヲ得、獄舎監督ハ官吏ハ親族朋友ノ求メアルゴトニ、許可票ヲ與ヘザルベカラズ、

第八十一條

凡ソ法章ニ於テ人ヲ捕ヘシムルノ權ヲ有セズシテ、專ラニ人ヲ捕フルヲ命シ、及指示シ、及施行セシ者、及凡ソ法ノ許ス所ノ拿捕ニ係ルト云ドモ、公然ニアラズ、及法ニ依リ指示シタルニアザルノ拘留所ニ受管勾留シタル者、及凡ソ獄監獄吏上ハ三條ニ背ク者ハ、皆横制拘人ハ重罪

ヲ科ス

第八十二條

凡ソ拿捕勾留處刑ニ於テ法ノ許サハル嚴刻ヲ用フル者ハ皆重罪トス

○英吉利

按スルニ英ニ成文建國法ナシ今ヲヘリエ
ル氏ノ歐米諸州建國法書英國歷次ハ布令
ヲ類聚セル者ニ据ル
人身自由居宅不侵

一 法ニ因テ定メタル事件ニ於テシ及定メタル
程式ニ循ヒ陪審同議シテ十二員有罪ヲ宣告
シタル公斷ノ後ニ法官ヨリ付シタル裁決ニ
依ルニアラザレバ何人モ自由ノ剝奪ヲ受ル
下無シ

然レモ若シ一月ヲ越ヘザルノ禁獄ニ止マル
者ハ陪審ノ參坐ナク警察裁判所之ヲ終決シ
控訴ヲ其一月以上三年ニ至ル者ハ之ヲ初決
許サズ
控訴ヲ
許サズ

一 法官花押シ及調印シ及被告ノ个体告訴ノ罪

狀ヲ的確ニ指示シタル令狀ニ依ルニアラザレバ、何人モ拿捕セラレ、一ナシ、
拿捕狀喚徴狀ハ、及逆罪ニ付テハ、内閣議官及
國相之ヲ付下シ、其ノ它ノ輕重罪ニ付テハ、親
審院ノ法官及九テノ保安法官之ヲ付下ス、
保安法官ヨリ付シタル令狀ハ、其ノ管内ニア
ラサレバ、施行スベキノカヲ有セズ、若シ其ノ
管外ニ施行スル時ハ、其ノ地ノ保安法官之ニ
檢署スルヲ要ス、
内閣議官、國相、親審院法官ヨリ付シタル令狀

ハ、全國ニ施行スベシ、
一 現行犯ニ於テハ、九テノ警士及被害人、其ノ它
凡テノ人、皆犯人ヲ捕フルノ權利及義務ヲ有
ス、但シ速ニ管理ノ官吏官法ヨリ、法ニ依ルノ程
式ヲ以テ、拿捕狀ヲ付シ、之ヲ追正スベシ、
一 九ノ拿捕ヲ被リタル者ハ、急ニ法官ノ前ニ訊
致シ、法官之ヲ訊問シテ、證據ヲ拾聚スベシ、
一 被告人ハ、常ニ何等ノ罪罪裁判宣告ノ日ニ至ル
迄、保証金ヲ納レ、審問及裁判ニ出頭スルノ約
束ヲナシ、解釋勾留ヲ云スルヲ請フ一ヲ得、但シ

重罪及反罪ハ、親審院ノ裁ニ依ラザレバ、保釋ヲ得ズ、

一若シ被告人、保証金ヲ納ル、ノ願、許スベカラズ、及許スベシト云レ、無力ニシテ納ル、一能ハザル者ハ、審問ノ間、之ヲ勾留ス、但、勾留スル者ハ、必ズ法官ノ花押調印ヲ具ヘ、被告ノ人、体、告訴ノ罪狀ヲ的確ニ指示シタル勾留狀ニ依ル

一凡ソ法ニ因テ掲ケタル事件ニアラズ、或ハ法ニ依ルノ程式ヲ欠キ、勾留ヲ被リタル人ハ、其

ノ管理ノ法官ニ申ヘタル訴ニ因テ、法官、人、身、保、護、狀、ヲ、付、シ、速、カ、ニ、解、放、ス、ル、ヲ、要、ス、法、官、ハ、法ニ於テ人身保護狀ヲ付スルノ任ニ居リ、若之ヲ付セザル時ハ、身其ノ罪ニ當ル、其ノ不法ノ拘捕ヲ命シ、及ヒ施行シ、及施行セシメタル者ハ、刑法及民償ヲ科ス、
一國民ノ居宅ハ、侵スベカラザルモ、トス、程式法ニ依ルノ拿捕狀施行ヲ除クノ外、何人モ、家主ノ許可ナクシテ、人家ニ進入スルヲ得ズ、
一糾治ノ爲ニ、已ムヲ得ザルノ時ニ於テ、法官ヨ

リ付シタル搜索状ニ依ルニアラザレバ、人家ヲ搜索スルトヲ得ズ、至テ急迫ノ時、不良ノ家ヲ搜索スルヲ除クノ外、夜間、人家ニ入ルトヲ得ズ、凡ソ被告人未ダ有罪ヲ証セザル者ノ文書ヲ搜索スルハ、不法横暴トス、

此ノ議、千七百六十六年ニ初マリ、現今施シテ通法トス、

民權保障

一國民ノ諸權ヲ尊重スベキノ義、左ノ三條ヲ以

テ保障トス

第一

民權ヲ侵ス者ハ、民刑ノ責ニ當ル、民

ハ、抵償ヲ云、刑トハ、科罰ヲ云、

允ノ官吏、文武ヲ論セズ、不法ニ法章保障スル所ノ民權ヲ侵スノ令ヲ付シ、及施行シタル者ハ、身其ノ責ニ當ル、上官ノ命ヲ引テ、罪ヲ免ルハ、トヲ得ズ、佛ニ於テハ、事ル者ハ、命ヲ付スル者、罪ニ任メ、命ヲ行フ者、罪ヲ省ム、英ハ、佛ニ比フレハ、嚴ヲ加フ其官吏ハ、豫メ其ノ所属上官ノ許可ヲ乞フキ、糺治スベキノ許可ヲ要スルトナク、直チニ陪審

ノ前ニ糾治スルヲ得佛ニ官吏ヲ優待シテ所屬上官糾治アリ英ニ之ナシ

第二 上願ノ權允ソ國民ハ王若クハ議院ニ上願書ヲ奉クルノ權ヲ有ス其ノ上願ノ故ヲ以テ糾責ヲ被ルナシ

第三 抵抗ハ權横制不法ノ令ニ於テ抵抗スルヲ得ルヲ以テ法トスル下裁判所歷次裁決スル所ナリ女王安ノ時ニ警士其

ハ管外ニ於テ拿捕ヲ行フ一人アリ警士管ヲ越ヘ法ニ違ヘルヲ以テ其ノ捕ヘラレタル人ヲ助ケ搏闘シテ警士殺サルヲ致セリ此ノ時十二人ノ裁判官判決シテ曰不法越管ニ因テ人ヲ拿捕スルハ行路人其ノ捕ヲ被ムルノ人ヲ隣テ其ノ抵抗ヲ助クルノ原由トスルニ足ル英國女王殿下ノ臣タル一人ノ自由ヲ侵スハ即チ允テノ臣人ニ向テ鬪毆ヲ挑起スルトス各民ハ人身保

護ノ權ヲ執ルノ義ヲ有ス、

○普魯西

千八百五十年正月布告建國法

普魯西人民諸權

第五條

人身ノ自由ハ之ヲ保障ス、言心ハ建國法之ヲ保障ス、但シ拿捕法ニ於テ、自由ヲ減殺スル者、法ニ於テ、何等ノ程式、何等ノ約束ヲ以テ、其ノ減殺ヲナシ得ベキヲ定ム、

第六條

居宅ハ、侵スベカラザル者トス、人家ニ進入シ、及搜索シ及文書簡冊ヲ押收スルハ、法ニ因テ定ムル所ノ事件ニ付キ、及定ムル所ノ程式ニ從フニアラザレバ、行フヲ得ズ、

第七條

何人モ、正當法司司法官ヨリ割カレ得ルヲナシ、言心ハ、司法官ニ依リ、審裁ヲ受テ、特置法廷、非政府其ノ間ヲ割シ得ベカラズ、常審吏政府ヨリ臨時ノ設ケアルヲ得ズ、此、臨判ノ設ケアル者、共和以來、臨時裁判ヲ廢セリ、蓋シ臨時裁判ハ、政

府專制シテ、法司ヲ
牽掣スル一起ル、

第八條

法ニ依ルニ非レハ、糾治ヲ命シ、刑罪ヲ斷スルヲ
得ズ、

第三十三條

書簡ハ、秘ハ、侵スベカラズ、但シ、争戰ノ時、及、治罪
ハ、為ニ、已ムヲ得ザル限、殺ハ、秘、密ノ權ヲ限、殺スト
ハ、書簡ヲ開、拵スルヲ
云、法章之ヲ定ムベシ、法章ノ定ムル所ニ据ラズメ、官
吏、縱マ、ニ、限、殺スルヲ得ズ、

○ 澳特利西

千八百六十七年十二月布告建國法

國民通權

第八條

人身ノ自由ハ、之ヲ保障ス、
允ソ不法ニ使令シ、及、不法ニ淹滞シタル勾捕ハ、
害ヲ受ケタル本人ニ向テ、政府ヨリ抵償ヲ與フ
ルノ義ヲ負フ、此レ、它ノ國
ナキ所、

第九條

居宅ハ、侵スベカラザル者トス

第十條

文書ヲ押收スルハ、交戦ノ時、及裁判ノ判文ニ依
ルニアラサレバ、法ニ依ルノ拿捕、及人家搜索ヲ
除クノ外、之ヲ行クヲ得ズ、

按スルニ、治罪法ヲ定メント欲セバ、先ツ其
ハ原則ヲ定ム、原則既ニ定マル時ハ、百端處
分皆是ニ依テ準繩トス、其ノ實際施行スル
者ヲシテ、原則ト並行調諧シテ、相背カサラ
シム、是レ立法官用意ノ所ナリ、其ハ它ハ、慣
習ニ仍リ便宜ニ從フ、亦妨ケザル而已、各邦
定ムル所ノ原則、大義數條、炳トシテ日星ノ

如シ先ツ是ヲ講セズシテ、獨リ形迹ヲ追フ、
可ナラン乎、

トキハ、
ハ、
ハ、

又此四

○第四章

人身自由

カシミル、ブルニエ、氏

按スルニ、各國建國法、首メニ人身自由、家宅
不侵ヲ説ク、蓋シニツノ者ハ、民權ノ大義、今
舉ケテ以テ、前章ノ釋義ニ當ツ、

英國ニ於テ、人身ノ自由トハ、力作シテ財ヲ得ル
ノ權、得ル所ノ財ヲ保ツノ權、身体ノ安寧、移住ノ
隨意、允ソ人ノ動作ニ於テ、障害ヲ受ケザルヲ云、
佛國ニ於テハ、義ヲ取ル一稍狭ク、允ソ人民自ラ
其ノ身體ヲ動止スル一、各其意ニ任シ、横暴不法

ノ勾捕ニ向テ、防護及抵償ヲ得ベキノ權ヲ有ス
ルヲ云、佛國刑法百十四條ヨリ百二十二條ニ至
ル迄、侵害自由律トス、允ソ政府ノ官吏、横暴ヲ以
テ、人身ノ自由、若クハ各民ノ民權、若クハ建國法
ヲ侵シタル者ハ、民權剝奪ニ處ス、其ノ諸執政ニ
在テハ、元老院ノ告戒ヲ經、猶改正スルヲ拒ミ、
若クハ怠ル者ハ、追放ニ處ス、允ソ治部司法ノ警
察官、不法勾留ノ咎ヲ受ケテ之ヲ法官ニ訴フル
下ヲ拒ミ、若クハ怠ル者ハ、民權剝奪ニ處ス、其ノ
法ヲ設クル、太嚴ナリト云ベシ、千八百十年、此ハ

條ヲ議スルニ當テ、立法官ノ叙説ニ曰、身体自由
ノ權利ハ、允ソ兩間ニ生活スル人倫ノ爲ニ百福
ノ第一也、故ニ政府及法章ハ、嚴密ナル用意
ヲ以テ務メテ之ヲ防護シ、大小官吏ノ横暴ヲ制
止スルヲ要スト、
古昔、行政權ノ盛ナル時ニ、王家一封ノ書、容易ニ
無罪ノ人ヲ勾捕シ、之ニ敢テ抵抗スルヲナシ、千
七百九十一年ノ建國法ニ至テ、始テ法ニ依ルノ
程式ニ循フニ非ルヨリハ、國民或ハ拿捕勾留セ
ラル、下無キ、行止ノ自由又、天權トシテ保障セリ、

人身ノ自由ヲ防護スルノ方ハ第一ニ逮捕ノ權
法ノカニ非レハ行フヲ得ズ第二ニ法ニ明文
アリテ的確ニ逮捕ノ權ヲ有スルノ官吏ヲ指示
スル是レナリ獨リ現行重犯ハ凡ソ還兵警士及
平氏皆直ニ逮捕スルヲ要ス此
ハ限ニ
ハテズ

佛蘭西ニ於テハ逮捕ヲ命シ及人家ヲ搜索スル
ノ權ヲ有スル者ヲ糾問法官トス糾問法官ハ法
官ヲ以テ檢官ヲ兼ヌル者ニシテ詳ニ糾問法官
ノ章ニ見コ
現行非現行犯ヲ論セズ凡ソ法ノ逮捕ヲ許ス者
ニ於テ其ノ逮捕ヲ命シ引致狀收監狀ヲ付スル

一ヲ得治罪法六十一條九十一
條九十四條九十七條

目代ハ檢官トシテ罪犯ヲ糾問法官ニ報呈シ引
致逮捕ヲ求ム其ノ現行ニシテ重罪犯ニ係ル者
ハ法官ニ報スルヲ待タズ目代自ラ犯人ヲ逮捕
セシメ引致狀ヲ付スル治罪法
四十條其ノ犯者
人家ノ内ニ在テ家主之ヲ檢彈スル治罪法四
十六條ヲ乞フ者
ハ亦現行犯ニ同シ
其ノ它保安法官備警兵士官警察使邑長副邑長
ハ目代補助ノ名義ヲ以テ現行犯ニ於テ同上ノ
權ヲ有ス各縣令巴里府警察令亦罪犯ヲ司法官

ニ付スル為ニ、同上ノ權ヲ有ス、治罪法十條

捕手拿捕ヲ行フニ、現行犯ニ非ルノ外、必ス引致
狀收監狀ニ依ル、引致狀收監狀ヲ帶行スル者ハ、
裁判所使部、備警兵、野警人、林警人トス、治罪法九十七條
歐洲中、它ノ諸國ニ於テ、專制ノ政、普魯社ノ如キ
モ、猶^ホ人身ノ自由ヲ保障シ、不法ノ拿捕ヲ禁シタ
リ、但シ普魯社ノ警察官ハ、拿捕ノ權、及訊問ノ權
ヲ兼ヌ、是混雜ノ弊トス、蓋シ訊問ノ權ハ常ニ司
法官ニ屬スベキ者ナリ、

フルニエー氏論ニ曰、各邦已ニ驗ミルハ跡

ニ据ルニ、人身自由ノ法ハ、它ハ寬政諸則ト
相倚テ成ル然ラザレバ、其ハ效シテ見ル下
少キ而已、寬政諸則ハ、著刺ハ自由、議政ハ自
由、陪審ハ設、對理ハ公行、及人民官吏ヲ訟フ
ルハ自由、是レナリ、

附 英國人身保護令 原語ハハビユス

按スルニ、英米二國ハ、人身保護令ハ、緊要ハ
一大法ニシテ、即チ人身自由ヲ保障スル所
以ナリ、今佛人ルイ、ゴタル氏ニ据リ、抄譯ス、
英國ニ於テ、人身ノ自由ヲ論スル下、甚々舊シ、其

ハ所謂大憲ナル第二十九章ニ云、自由ニシテ且
正理ニ及法章ニ依タル同等人陪審ハ裁判ハ力
ニ依ルニ非レバ何人モ拿捕シ、獄ニ拘シ、其ノ財
産及自由及生命ヲ奪ハル、トヲ得ズト、ハラム
氏ニ据ルニ、此ノ法實ニ索薩サツサヨリ來レルナリ、
中古ハ亂政府橫暴ニシテ、憲法ト相背馳スト云
トモ、其ノ人民ハ、其ノ活潑深到ナル精神ヲ以テ、
自由ヲ主張スルトヲ失ハス、而シテ地方ハ法官、
王命ニ抵抗シ、屢獄ニ在ルハ無罪人ヲ釋放スル
ハ事ヲ行ヒ、以テ自由ヲ保護セリ、千六百四十一

年ニ至テ、議院始メテ法章ヲ著シ、凡ソ處分スル
ノ事犯、法律ニ觸ル、ノ因由ヲ知會セズシテ、妄
リニ勾捕セラレタル者ハ、其ノ親友、若クハ代言
人ヨリ、上等裁判官ニ控訴シ、裁判官、爲ニ即時申
理セザルトヲ得ズ、令狀ヲ出シテ、獄監及セリフ
地方吏目ニ付シ、直チニ其ノ人ヲ前ニ引キ、自ラ之ヲ
訊問シ、三日内ニ、決判シテ、果シテ罪アル者ハ、仍
勾留シ、或ハ保証法ヲ用ヒ、釋放シ、其ノ無罪不法
ナル者ハ、國王宰相ノ命ニ出ル者ト云ヒ、一槩ニ
解免ス、然ルニ、政府猶力ヲ盡シテ、法官ノ寬縱ヲ

拒ミ、或ハ囚人ヲ輾轉送移シテ、其ノ在ル所ヲ知
ラザラシメ、シヤル、二世^王ノ時ニハ、之ヲ絶
海ノ島法官ノ力及ハザルノ地ニ投シテ、以テ其
ノ意ヲ快スルニ至リ、法官亦往々之ヲ問ハザル
ニ付シタリ、於是、千六百七十九年、議院ニ於テ、高
名ナル人身保護令ヲ布告シタリ、
人身保護令ニ據ルニ、拿捕ヲ被リタル者、六時内
ニ、拿捕狀ノ副本ヲ獄監ニ求ムルヲ得、獄監、拒
テ與ヘザル時ハ二名ノ證人ヲ以テ、其ノ事ヲ証
スルヲ得、其ノ拿捕狀ノ副本ヲ得ル者、之ヲ上

等裁判官ニ訴ヘ、上等裁判官ハ、三日内ニ其ノ狀
ヲ檢シテ、勾留ノ証ヲ得、即チ人身保護狀ヲ發ス、
若シ拿捕狀ノ副本ヲ得ザル者ハ、二名ノ証人ニ
據テ申訴ス、其ノ拒イテ與ヘザルノ獄吏ハ、官ヲ
奪ヒ、終身官ニ就クヲ得ズ、及囚人ニ向テ、千リ
トウル乃至二千リトウルノ抵償ヲ科ス、囚人死
スト云ビ、告訴ノ權、子孫ニ及フ、人身保護狀ヲ得
タルノ囚人ハ、急速其ノ狀ヲ發シタルノ裁判官
ノ前ニ送引シ、裁判官ノ處分ニ任シ、無罪ナル者
ヲ放免ス、其ノ放免セズシテ、之ヲ保管シ、或ハ勾

留スル者ハ、犯罪ノ地、來次ノ會審ニ於テ之ヲ審
判ス、若シ來次ノ會審ニ王家ノ代言人即チコラ
代ノ如シ、國王ノ為ニ出頭セズ、及證憑未タ具ハ
罪犯ヲ告訴スル者、出頭セザルキハ、裁
ラザルニ由テ、出頭セザルコトヲ申セザルキハ、裁
判官即チ囚人ヲ解放ス、其ノ証憑未タ具ラザル
ヲ以テ、淹滯勾留シ、後次ノ會審ニ至テ、猶出頭セ
ザル者ハ、又之ヲ解放ス、其ノ人身保護狀ヲ發行
シタル法官ノ決ニ因リ、及會審ニ於テ、陪審ノ判
斷ヲ經、無罪ヲ以テ、放免シタル者ハ、再々ヒ其ノ
事件ヲ以テ、收監セラレ、コトヲ得ズ、違フ者ハ、其

ノ拿捕狀ヲ發スル者、及施行スル者、共ニ五百リ
トナルノ罰金、并ニ囚人ニ向テ、抵償ヲ科ス、人ヲ
海外ニ投スル者ハ、死ヨリ重キ罪ニ處ス、死ヨリ
トハ、死罪ヲ宣告スルノ後、國王其ノ命ヲ施行シ、
ヨリ赦ヲ賜フコトヲ得ザルヲ云及給テ借セシ者ハ、抵償ヲ科ス、此ノ法アリシヨ
リ、今ニ至ル迄、二百年、政府毎常、循守シテ、大小官
吏犯ス者アルコトナシ、但、千六百八十九年、千七百
四十五年、千七百九十三年、千八百三十二年、内亂
ハ時、議院ノ議決ヲ經テ、暫ク此法ノ施行ヲ停メ
タル而已、

按スルニ、人身保護法ノ施行ヲ停ムル者ハ、
内亂ノ際、豫防戒嚴ヲ以テ重シトス、故ニ暫
ク自由ノ權ヲ減殺スルナリ、米國ノ建國法
ニ曰、内亂外寇ノ際ニアラザレバ、人身保護
ノ權ヲ停ムルナシ、

英國警士拿捕ノ權甚タ廣シ、故ニ其ノ不法
ヲ制防スルニ、法官ノ人身保護狀ヲ以テス、
佛國ニ比スレハ、差繁ニ涉ルニ似タリト云
ドモ、其ノ入身ノ自由ヲ慎重スル亦觀ルベ

家宅不侵

フランシス氏

凡ノ國民ノ家宅ハ、主宰ノ權專ラ其ノ本主ニ屬
シ、各人ヲ論セズ、凡ノ大小ノ官吏、妄リニ其中ニ
進入スルトヲ得ザル、國民權利ハ一大則ニシ
テ、各國建國法ハ、掲クル所之ヲ名ケテ家宅ノ不
侵トス、佛國刑法百八十四條ニ據ルニ、凡ツ治部
司法警察ヲ論セズ、官吏其ノ職ヲ行フニ付キ、家
主ノ意ニ逆フテ人家ニ進入シ、其ノ法章ニ掲ケ
タル時事ニアラズ、及法章示ス所ハ、程式ニ依ラ
ザル者ハ、禁獄六日以上、一年以下、罰金十六、

以上五百フラン以下ニ處スルコトニ依リ、
人ノ家ニ突入シ、破毀ヲ用ヒザル者ハ、連警罪ヲ科ス、若シ強
抵償ヲ科ス、若シ破毀スル者ハ、刑金百六十ラシ、
暴行トシテ、三月以下ノ罰金六十ラシ、
獄六日以上、三月以下ノ罰金六十ラシ、
重クシテ、蓋シ官吏ノ横暴ヲ痛制スル所ニ依リ、
法章ニ掲ケタル時事トハ、目代及目代補助諸員、
糾問法官、警察令、諸縣令ハ、即チ人身自由ノ現行
ノ重輕犯ヲ檢視スル爲ニ、晝間門ヲ排ヒテ、人家
ニ進入スルコトヲ得、家主拒マザルハ、論ナシ、其
野警人、林警人ハ、檢察官吏ニ列スト云ドモ、
保安法官若クハ其ノ補員若クハ警察使若

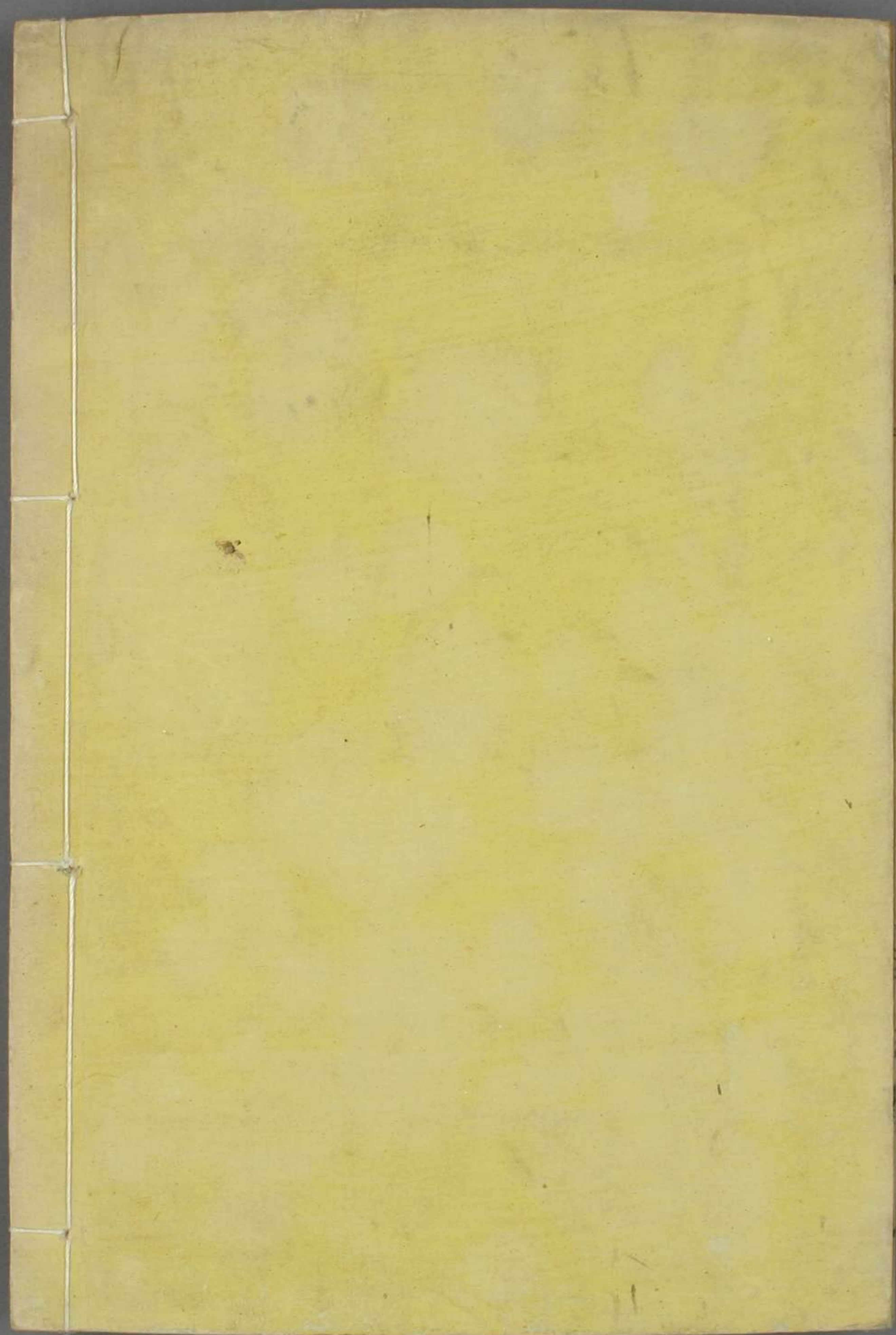
クハ邑長、副邑長、臨視スルニ非レハ、家主ハ
意ニ逆フテ、人家及墻圍ノ地ニ進入スルコ
トヲ得ズ、若シ家主許可シテテ拒マザ
ル者ハ、進入スルコトヲ得、
備警兵ハ、檢察官ニ列セズト云、千八百五
十四年ノ令ニ據ルニ、現行重犯ニ於テ、本犯
ハ、家ニ進入スルコトヲ得、但シ、他人ノ家ニ
若シ夫レ非現行犯ニ至テハ、晝夜ヲ論セズ、糾問法
官若クハ其ハ派委シテ代理タル所ハ、檢察官吏
檢視訪察ヲ行フハ、故ニアラザルヨリ、ハ、一切ハ
官吏、家主ニ逆フテ、人家ニ進入スルコトヲ得ズ、

上官ノ命ヲ以テ人家ニ進入スルトヲ得ル者、使
部、及備警兵ノ引致狀、收監狀、及處罰ヲ施行スル
是レナリ、

以上、皆晝間ヲ以テ論ス、更ニ晝夜ノ別ヲ知ン
ヲ要ス、凡ソ夜間ハ、何人ヲ論セズ、火災、水溢、及家
人ノ請求ニ因ルヲ除クハ外、家主ノ意ニ逆フテ、
人家ニ進入スルハ、權ヲ有スルトナシ、
但シ茶店、酒店、旅店、舗店、娼戸ノ類、人ノ縱入ヲ許
スハ、家ハ、其ノ未タ閉チザルノ間、夜間ト云ヒ、進
入スルトヲ得、其ハ已ニ閉チタル者ハ、中ニ猶容

アルトヲ知ルト云ドモ、亦入ルトヲ得ベカラズ、

此處為正文內容，因字跡極其模糊，無法辨識。



明治七年刊成

司法省七等出仕井上毅纂

治罪法備攷上編

司法省檢事局藏版